

凡 例

1. 本書は『工師デレーケ 吉野川検査復命書』（ガリ版印刷・徳島工事事務所・昭和三十三年復刻発行）を現代語化したものである。
2. 現代語化に当たってはできるだけ「原文に忠実に」を心がけたが、現代語と著しく相違する場合には、若干の意訳を行った。
3. 原文（明治時代の翻訳文・ガリ版印刷）を現代語訳と併記して比較検討できるようにした。右ページに原文、左ページに現代語を配した。なお、右ページの脚注は昭和三十三年の復刻した時につけたものと推測されるので、現代語化の対象にはしなかった。
4. 現代語化の過程で、説明を要すると思われる事項については、左ページに脚注としてつけた。
5. 現代語化に当たって用語・用字等は、現代文の表記に従ったが、現代語に置き直すことが適切でないと思われる場合は、そのままにしてマ表記をつけた。
官員、首街
6. 地名等に間違いのある場合、マ表記をつけ、脚注で指摘した。
州津村 「脚注」昼間村の間違い
7. 原文においてカタカナ表記された地名は、記述内容から確認できる場合には漢字で表記した。
カヨキヨ谷↓金清谷、クス谷↓九頭宇谷、コセ山↓高瀬山

8. 記号については次の通りである。

- ① 現代と相違する国有名詞は、現代名を（ ）で示した。ただし著しく接近して再出する場合には注記を省略したものもある。
八幡山（眉山）、桂川（勝浦川）、津田川（新町川）
- ② 吉野川は本書のテーマであるので、原文の呼称と現代名をすべて（ ）で示した。
吉野川（旧吉野川）、吉野川末流（旧吉野川）
- ③ 行政地名は、現代の行政地名を（ ）で示した。ただし著しく接近して再出する場合には、注記を省略したものもある。
津田村（徳島市津田町）、広島村（松茂町広島）、第十村（石井町第十）
- ④ 紛らわしい語及び補足を必要とする語句には、同じ内容を示す語句を（ ）で示した。
一八八四年（明治十七年）、本年（明治十七年）、水位尺（量水標）
- ⑤ 強調したい語は、原文の有無に関わらず「」で示した。
井沢市ノ堰ト唱フル堰埭アリ↓「井沢市の堰」と称する堰があり
- ⑥ 談話の内容は、「」で示した。
次のように話した。「吉野川を・・・」と。
- ⑦ 見出語に【 】をつけて見やすくした。
【銅山川】銅山川は・・・
- ⑧ 原文にない言葉を補う場合は「」をつけた。
「鮎喰川の」上流では、・・・

⑨ 本文中における各種の注記は、現代語化においても注記としたものは、同じ内容を示す場合には（ ）で示し、それ以外の場合は《 》で示した。

そのうち大部分（三万円と監視者の費用二千元）

同じ吉野川の名《幹流と同名》を持っている。

9. 尺貫法の単位は、最初に出てきたときにメートル法で示した。

10. 洲嶼・洲渚・沙灘は、原文のままに置いて置いた。その他、地質・河川関係用語についてもできる限り原文の用語を尊重した。

11. 数字については次のように二通りに使い分けた。

① 元号による年代、月日を表す場合

明治十七年、十一月三十日

② その他の数量、西暦年号を表す場合

一八三三円、五〇対一、三二間三尺六寸、一八七九年

12. 読みにくい漢字等については、最初に出てきたときにふりがなをつけた。

灌漑、浚渫